

平成28年1月12日

人口の減少に対応するための施策に係る要望書

伊那市長 白鳥 孝 様

伊那市議会 人口増推進特別委員会

前田 久子

柳川 広美

宮島 良夫

中山 彰博

八木 択真

唐澤 千明

人口増推進特別委員会は、平成26年6月から人口減に対応するための方策を研究しています。市立保育園のうち9園（竜西、竜東、美篤西部、東春近中央、西箕輪南部、西春近南部、高遠第1、高遠第2・第3、長谷）の子育て世帯の保護者に対するアンケートと伊那商工会議所主催の新入社員に対するアンケートの実施をはじめ、集落支援員及び地域おこし協力隊員、伊那まちの再生やるじゃん会、伊那商工会議所青年部、高沖清乃氏など、各界の市民との対話を重ね、市民生活の実情や理想、それに対する要望をお聞きする中で、あるべき伊那市の姿について検討を行ってきました。

子育て支援では、希望する園へ入園できない場合がかなりあり、その原因は保育士の不足とのことで、国も保育士確保の施策を考えていますが、市としても正規の保育士を確保する努力が求められています。また、働く親の負担軽減のためには、預けやすい場所へ病児保育の設置、病後児保育の充実を実施していく必要があります。さらに、子育て中の世帯にとって、市内には安心して遊ばせられる公園が少なく、遊具が少ないために長時間楽しめない公園が多いなど、十分機能していないので、その見直しも課題です。

移住定住の促進については、就職相談を含めた移住・定住相談をワンストップで行う窓口について、民間委託も含めて検討する必要があります。また、信州大学や南信工科短大の学生向けに、街なか居住を促進する情報を発信していくほか、市営住宅の中のその他住宅について、所得要件の緩和などを行い、移住者向けの対応についても柔軟にするべきです。高遠町老人福祉センターなどを移住・定住促進の拠点施設に活用することも考えられます。さらに、最近5年間に移住して来た皆さんの意見を市が聞く会や、移住者や地域活性化に対し

て意識の高い人同士が交流できる会を定期的を開催し、考え方やアイデアをどんどん吸い上げるとともに、地域の発展を自発的に担う人材として育成し、つながりあってもらうことも求められています。地域の魅力を創造し、盛り上げ、伝えるうえで、市民がいきいきと活躍することが必要なのです。

将来、結婚や出産を希望する独身の男女が結ばれることは、市民の重大な関心事であることから、市民の力を結集して、成婚率を高めていく工夫が必要です。また、現在の出会いサポートセンターが殺風景で、出会いを求める男女が立ち寄りにくい雰囲気であると思われるので、その対策が必要です。

以上のことから、下記の事項について、市としての積極的な対応を要望します。

記

1 子育て支援

- (1) 3歳未満児保育の充実（待機児童の解消）のための保育士の確保
- (2) 病児保育の設置、病後児保育の充実
- (3) 長時間保育（7時～19時）の全園での実施
- (4) 子どもの安全な遊び場（自然を生かした大型の公園）について検討する組織の設置

2 移住・定住と観光

- (1) 空き家バンク、空き土地バンクの充実
- (2) 雇用を含めた移住・定住相談窓口の民間委託についての検討
- (3) 伊那市の魅力を内外にPRできる「伊那市SNS」の導入
(市民が市の魅力について自ら情報発信できる場づくり)
- (4) 信大生・南信工科短大生の街なか居住誘導策
- (5) 市営住宅（「その他住宅」）の入居基準の緩和と若い夫婦に対する家賃補助、移住目的の一時入居者（目的外使用）に対する柔軟な対応（家賃の軽減及び期間の延長）

3 婚活支援

- (1) 地域からの推薦による婚活支援員の設置
- (2) 婚活に関わるグループの連絡会（意見交換会）の設置
- (3) 出会いサポートセンターの事務所の雰囲気作り
(旧「市民サービスコーナー」への移転なども含めて)